

2024年度(第1回)

学校関係者評価委員会評価報告書  
(2024年度自己点検・自己評価)

令和6年9月20日

学校法人 朝日医療学園  
朝日医療専門学校広島校

# 2024年度 朝日医療専門学校広島校

## 第1回 学校関係者評価委員会

(委員)

氏名	所属	任期	種別
土方 政幸	公益社団法人広島県柔道整復師会理事	2024年4月1日 ～2025年3月31日	企業・業界団体
河部 眞利	広島県立安芸南高等学校 元校長	2024年4月1日 ～2025年3月31日	高等学校校長経験者
渡邊 由恵	広島テレビ放送株式会社 総務局 総務人事部	2024年4月1日 ～2025年3月31日	学生の保護者
中村 崇弘	己斐なかむら鍼灸接骨院 院長	2024年4月1日 ～2025年3月31日	本校卒業生

評価目別結果 1:不適切 2:やや不適切 3:ほぼ適切 4:適切

(1)教育理念・目標(教育理念、目標、育人人材像)			自己評価点	学校関係者評価点
現状・課題	今後の改善方策	学校関係者評価		
<p>教育理念や教育目標等については、教務部が主体となって実施の新入生ガイダンスにて教育訓練の一環として周知するように努めた。また、入学式等の行事での挨拶、学生便覧へ記載、校内掲示(1Fロビー、教職員室)、ホームページ上へ掲示することを徹底し、学生および保護者にむけて周知継続を図っている。</p>	<p>今後も同様の周知継続を実践していく。また、今年度よりWeb上で出欠・成績などが閲覧できる機能を運用していることで、効果的な運用ができていのか否かを評価していきたい。</p>	<p>現状、新規導入のシステム運用が軌道に乗っているという点において評価したい。保護者を含め学生自身も主体性を持ち取り組めるシステム運用に繋げていただきたい。また、自宅外生の保護者との連携強化が図られているか否か今後の報告を望む。</p>	3	3
<p><b>特記事項</b> 保護者との連携強化に繋がっているか否かの最終判断については、今年度末まで様子を見ううえで改善点を見いだしていく必要がある。</p>				
(2)学校運営(運営方針・運営組織・情報管理)				
現状・課題	今後の改善方策	学校関係者評価		
<p>評議員会および理事会で承認された経営方針や事業計画をもとに学校長の指示の下、組織的に運営している。また、校内各会議において、各期における事業報告と行動計画を立案するように求め、教職員の各業務の進捗状況を確認しながら組織運営を図ることに努めている。</p>	<p>承認された経営方針や事業計画は、教職員組織の管理者会議にて報告するだけでなく教職員全体へ伝達する必要がある。そのために学科会議および常置委員会を通じて検討内容や承認事項の把握に努める。さらに教職員全体会議で周知徹底事項を共有し、期中には事業計画や事業予算の進捗状況の経過報告を実施していく。</p>	<p>現状、問題点や指摘する点はなし。</p>	3	3
<p><b>特記事項</b> 勤怠管理などの点において、今後は教職員関連委員会を通じて教職員全体が意識改革をする必要がある。</p>				
(3)教育活動(目標設定、カリキュラム編成、成績評価、単位認定、資格取得の指導体制)				
現状・課題	今後の改善方策	学校関係者評価		
<p>年間を通して補習・チューター体制を整え、継続的に指導を行っている。第3学年については、月1回、模擬試験を実施し、学習状況を把握するとともに国家試験合格への意識付けを行っている。第3学年に対して行っている補習だけでなく、他学年を対象とした補習も充実してきており、早期からの学習意欲の向上・目的意識の醸成等に一定の効果はみられるが、教員負担や空き教室の制約が課題である。 また、定期試験2週間前から夜間に学校を開放し、学生の自学自習に活用させている。</p>	<p>次年度に向けて、全校的な指導体制を改めて見直し、補習指導体制の強化、空き教室の有効活用等について検討していく。</p>	<p>補習体制の具体的な充実策については、苦慮されながらも臨機応変に対応していることを評価する。ただし、補習指導を望まない学生についての指導を今後どうしていくのか、悩ましい点ではあるが検討していただきたい。</p>	3	3
<p><b>特記事項</b> 例年、補習指導を望まない学生が成績不良者となることを理解させなければならない。授業は理解に苦しむが、補習であれば何とか理解できると感じる学生もいる。</p>				

(4)学修成果(資格取得率、就職率、退学率、学生の社会的活動)			3	3
現状・課題	今後の改善方策	学校関係者評価		
<p>就職希望者に対する就職率は100%を維持している。</p> <p>昨年度は最終的に退学率が5%を超える結果となった。今期は現時点で退学者はいないが、悩みを抱える学生もいるのが現状である。</p> <p>実質合格率を向上させるために、基礎学力の向上、自学自習の習慣化等を目指す必要がある。学生の意欲向上を目的として、特別講義やゼミ、同窓会と連携したセミナー等を充実させている。</p>	<p>実質合格率の向上や退学率5%未満を維持するために、成績不良者に対する面談や指導を丁寧に行っていく必要がある。</p> <p>また、各学生の資格取得さらには卒業後の進路に対する意欲をさらに高めていくためにも、より良い指導の在り方を組織的に考えていく。</p>	<p>退学率が悪化した点においては非常に残念である。しかしながら、退学者を出さないよう1・2年生の段階から自学自習の意識付けを勧めたうえでの結果だと受け止める。退学率5.3%の中に含まれるものが補習に参加しない層であることは明白なので、この層をどのように改善に導いていくのか検討してほしい。</p>		
<p><b>特記事項</b></p> <p>退学率の改善に繋がるよう補習指導の在り方を再検討し、教員側の意識改革を徹底したうえで学生指導にあたる必要がある。</p>				
(5)学生支援(就職・進学支援、健康管理、学生生活・相談、保護者との連携、卒業生支援)			3	3
現状・課題	今後の改善方策	学校関係者評価		
<p>担任を中心に面談・相談の体制をとっている。</p> <p>また、各教科担当者が講義中の学生の様子について会議等で報告し、必要な支援・指導につなげている。</p> <p>就職・進学支援については、担任・学生部が中心となり、第3学年の学生全員と面談を行い、進路希望の把握をしている。</p> <p>今年度からWebポータル上で各科目の出欠状況や成績等を確認できるシステムを導入した。学生本人が出欠状況等を管理するとともに、保護者も同じ情報を閲覧できるようになった。</p>	<p>学生の多様化が進んでいるが、面談や普段のコミュニケーションを通して、各学生の状況を把握し、丁寧な指導に繋がることが今後も必要である。</p> <p>第3学年の進路指導については、模擬試験の結果等を踏まえながら、できる限り学生本人の希望に沿える形で進めていく。</p>	<p>就職・進学支援については、学生一人ひとりに対してかなり丁寧に支援されている点を評価したい。4月に就職した高校新卒の離職率についても改善が見られる。しかしながら、独立開業を見据えた社会人にとっては実務経験年数が問われることについて、社会人の従事できる職場環境(年収や労働条件)を斡旋する支援体制を講じる方を検討してほしい。</p>		
<p><b>特記事項</b></p> <p>社会人のキャリア支援については恒久的な対策が必要である。</p>				
(6)教育環境(施設・設備等、学外実習、防災・安全等)			3	3
現状・課題	今後の改善方策	学校関係者評価		
<p>西広島駅周辺の再開発に伴う移転計画があるため、大きな施設改修は望めない。ただし、経年劣化による修繕や安全・防災面の老朽化対策については、予算を慎重に計上し、適宜計画的に進めている。</p> <p>ソフト面の教育環境の改善のひとつとして、Web上で出欠登録が可能な新機能の運用を開始し教職員の負担軽減を図っている。</p>	<p>新規導入した新機能について、教職員の負担軽減に繋がっているのか全校体制で評価し、必要であれば改善点を見だし、より良いシステム運用ができるよう協議を継続していく。</p>	<p>現状、問題点や指摘する点はなし。</p> <p>また、移転計画の内容については、情報の開示ができる段階で議論を重ねていきたい。</p> <p>引き続き、年度予算に沿った適切な設備投資(改修)を実行していただきたい。</p>		
<p><b>特記事項</b></p> <p>西広島駅周辺の再開発事業については、学校運営の基盤となるため進捗状況を常に注視しておく。</p>				
(7)学生の募集と受け入れ(学生募集活動、入学選考、学納金)			3	3
現状・課題	今後の改善方策	学校関係者評価		
<p>昨年度の募集では18歳人口の大幅な減少・コロナ緩和による県外流出・県内外の大学&amp;専門学校との攻勢・一般企業の求人数の大幅増加といった様々な要因も含め募集活動が苦戦し、4年連続入学者増から例年の2割弱の入学者減の結果となった。その結果を踏まえ、今年度の募集活動は昨年の夏以降から来年度入学者を見据えて早めに準備を行ってきた。また、募集活動への人員を4月から増員して校内・会場ガイダンスへの参加増・募集エリア拡大・スポーツチームサポート・治療院訪問といった広報活動を強化することでオープンキャンパスへの動員へ注力した。結果は前半の募集活動において重要である5月～8月のオープンキャンパスへの動員は昨年よりも各回毎に安定した高校生の動員数を確保し、丁寧な対応ができたと思われる。ただ、同様の事はライバル校でも考えられるので今後の出願(10月～)における歩留まりをどれだけ抑えられるかが課題となる。</p>	<p>今後開催(9～12月)されるオープンキャンパスへ高校3年生&amp;社会人の動員に注力することはもちろん、4～8月のオープンキャンパス参加者の出願率を上げるため出願前の9月に4回の入試説明会をオンラインで開催することで入学希望者の取りこぼしが無いようにするとともにホームページ・SNSで学校の雰囲気やゼミ・サークル・クラブ・臨床実習などの朝日の強みや取り組みといった他校との差別化を明確にした情報発信を継続する。さらに、次年・次々年度の学生募集のためにも高校1・2年生の校内・会場進路ガイダンスへも積極的に参加し、さらにスポーツチーム&amp;部活動サポートなども可能な限り行うことで未来の入学候補者である高校1・2年生との接触の機会を極力増やしていく予定である。</p>	<p>昨年度導入の「特待生入試」が今年度の入学選考の結果に如何に反映されるかを注視しておきたい。</p> <p>学生募集活動においては、教育とSNSは密接な関係だと捉えており、学校情報のSNSへの投稿内容などは好意的な印象を受ける。入学希望者に対して必要と思われる他校との差別化を明確にした情報発信の継続に期待したい。</p> <p>社会人の入学者確保に向け「教育訓練指定講座」の再申請および新規申請の要件を満たすよう全力で指導していただきたい。</p>		
<p><b>特記事項</b></p> <p>「特待生制度」の活用は経済的な支援につながり、自己投資のために使える制度であると周知徹底していく。</p>				

(8) 財務(財務基盤、予算・収支計画、会計監査、財務情報公開)			3	3
現状・課題	今後の改善方策	学校関係者評価		
公認会計士の監査を受け、評議員会および理事会で審議のうえ、厳しいながらも現状は適切な財務状況であると承認を受けている。収支予算の計上についても、対前年比を常に意識した予算を計上し、決して無駄な支出とならないよう慎重に収支計画を立案している。しかしながら、18歳人口減少の社会情勢もあり、財務基盤の柱となる学納金収入が大幅に増加となる予測は現在のところ現実的ではない。	引き続き全体的な財務状況を意識しながら適切且つ正確な予算執行を実施していく。本年度においては、可能な限りコスト削減に努める。また、18歳人口減少の社会情勢をどのように乗り越え、財務基盤の柱となる学納金収入の減収阻止に向けた施策として全校体制で退学者の抑制を図りたい。	収支予算を都度精査し、適切な事業遂行に努めている点を評価する。目標とする退学率5%以内の抑制においても、本校の特徴である手厚いサポートを発揮することで退学者数の抑制につながることを意識してほしい。		
特記事項 全体的な財務状況を常に意識し事業遂行を実践していく。				
(9) 法令等の順守(個人情報保護、学校評価)			3	3
現状・課題	今後の改善方策	学校関係者評価		
設置基準に則り適正な運営を実施している。	常に教職員の適正人員の確保と配置に気を配りつつ、イレギュラーな対応に迫られることのないよう準備と対策を実施しておく必要がある(体職対応など)。	現状、問題点や指摘する点なし。		
特記事項 なし				
(10) 社会貢献・地域貢献(社会・地域貢献、生涯学習、ボランティア活動)			4	4
現状・課題	今後の改善方策	学校関係者評価		
地域住民を対象とした100歳体操を本校2階柔道場にて、引き続き実施している。 また、地域団体からお声がけを頂き地域貢献活動の一環として、教職員・学生で地域行事のボランティア活動やスポーツ活動に積極的に参加している。	引き続き地域に開かれた魅力ある学校づくりを推進することはもちろん、本校の資源(人材・教材・施設等)を活かした地域貢献活動については、本年度は主体的に実施していくことを目標とし、行政のアドバイスを頂戴しながら地域貢献活動を有意義なものにしていきたい。	学校と行政が連携を図りつつ、主体性を持った学生による地域貢献活動は地域社会との距離感も近くなるため、素晴らしい施策であると最大評価する。		
特記事項 学生の満足度向上にも寄与できるため、教職員一丸でアンテナを張り、学生の社会的活動につながる支援活動を模索していく。				

### 総合的評価結果

特に大きな問題はなく健全な学校運営が図られている。